

■WCS保管場所確保に向け検討開始 ■酪農ヘルパー員への「指示書」整備



理事 10 名(1 名欠席)、監事 3 名(1 名欠席)の出席のもと、協議事項 5 項目を審議決定した。

協議事項

協議一 重点指導対象組合員等に対する経営再建支援策

▼三名の組合員から酪農経営再建支援要請を受け、これまでにこの支援の在り方を巡って生産委員会や理事会で慎重な審議を重ねてきた。十二月十二日開催の理事会では、要請書並びに経営計画書において、確認を要する点があることから、該当組合員に更なる確認と貸借対照表の提出を求めるよう意見がまとめられ、その指摘事項を伝え、期日までに該当組合員二名から関係資料の提出を受け、再度その関連性を検証し協議を行った。

▼協議の結果、この支援にあたっては「重点指導組合員」若しくは「経営支援組合員」に位置付けし、各々の組合員に及ぶ「酪農経営再建重点指導支援契約書」、「経営支援契約書」に盛り込む支援事項や理事会決議事項を踏まえて整備し、その文言や字句は組合長一任とした。ただし、これらの支援内容においては、連帯保証人や物的担保を要することから、これらの適正を判断し対応することとした。

協議二 「3M事業26」に対する重点指導または経営支援組合員の利用可否判断

▼協議一の二名の組合員に係る「3M事業26」の支援要請に関して、経営改善計画においては導入牛の確保が優先課題であることから、協議一の契約条件および差入担保の内容をみて、その事業参加を認めることを決定した。

協議三 みわTMRセンターの隣接地の取得

▼TMR飼料原料の飼料稲(WCS)及び製造TMR飼料の保管場所の整備充実を図り、TMR飼料の品質保持並びに配送運搬作業、製造労務作業の合理化かつ効率化を図るため、みわTMRセンターの土地に隣接する用地(山林並びに水田)の取得と造成整備に向けて検討を進めていく方向性を決定した。

協議四 酪農ヘルパー事業運営規程の一部変更

▼酪農ヘルパー事業運営規程第四条(利用農家の注意事項)では『利用農家

は、業務が円滑に実施できるよう次の事項に留意し、別表五の「飼養一覽表」に主要伝達事項を記入しておくものとすると定め、利用農家にはこの伝達徹底を求め事業執行にあたってきた。

▼しかしながら、先の酪農ヘルパー員の出役時において、搾乳した生乳が乳業メーカーに搬入され、ここでの受乳検査結果において、抗生物質の混入が原因で生乳は廃棄となり、多額の損害が生じたことから、この再発防止策として、酪農家から酪農ヘルパー員への指示を明確化するため、現行の酪農ヘルパー事業運営規程に定める「飼養一覽表」を「酪農ヘルパー員に対する作業指示書」に改め、利用農家に対して、この記載・徹底を図り、酪農ヘルパー員に対する作業指示書の原本は広酪に持ち帰って保管、以後のトラブル発生が生じないよう適正を期すこととした。様式はA3様式で、記入しやすいうよう改善を図ることを付け加えた。

▼酪農ヘルパー事業運営規程の一部変更時期は、平成二十七年四月一日からとした。(関連記事本紙十八頁)

協議五 役員賠償責任保険制度への加入更新

▼二月二十五日付をもって一年間の保

険加入期間が満了することから、この継続加入について審議し決定した。加入先はあいおいニッセイ同和損害保険(株)。加入期間は一年間。保険掛金総額は八十三万円。その内一割相当額を役員十五名が均等に負担することとした。

■報告事項

- ① 子会社・山陽乳業(株)の経営状況
- ② 中国生乳販連の乳価交渉状況
- ③ 体細胞数の基準緩和に関する進捗状況
- ④ 平成二十六年度生乳計画生産の進捗状況
- ⑤ 平成二十六年度補正予算に伴う畜産クラスター事業への要望希望調査結果と今後のスケジュール
- ⑥ みわTMRセンター飼料製造に関する業務委託
- ⑦ 福山・吉田の土地建物譲渡に伴う資産処分
- ⑧ 離農跡地取得に向けた経過
- ⑨ 座談会の開催
- ⑩ 個人情報の不適切な取り扱い取り返しの事業の取り次ぎ
- ⑪ 職員に対する年末賞与の支給
- ⑫ 役員手帳・監査手帳の配布
- ⑬

第二回広酪製造TMR飼料利用者対象意見交換会 一月二十日 広酪本所会議室

TMR改善に向け利用者意見を聴く 作業改善に向け「減圧試作品」を確認



スカル↓六パスカル、押出圧縮八パスカル↓四パスカル)の開封と硬度計による測定実演を行った。

参加者からは現状のTMR利用において、①飼料イネが入ってからはぐれやすくなった、②異物混入への改善、③WCS入りTMRの嗜好性や単価等はどうか等の意見があった。

広酪は、TMR利用状況の把握と改善を図ることを目的に第二回広酪製造TMR飼料利用者対象意見交換会を開催した。TMR利用者十名に加え、県立畜産技術センターの新出次長・城田専門員、全酪連三次駐在員事務所の市川所長・佐々木職員、広酪事務局を含め二十三名が出席した。

広酪からは、①平成二十七年年度飼料イネ(WCS)の確保状況、②飼料イネTMRの成分と試験給与結果の報告、③クレーム状況と給餌作業の軽減策等の対処方法を説明し、四百kg梱包と圧縮率を抑えた試験製品(横圧縮を八パ

以前から既存TMRの掻き出し作業に苦慮するとの意見に対しては、減圧した試作品のほぐれ具合を見て、その期待値は高まり、早く供給してほしいとの意見もあった。広酪では発酵状況の試験結果を見て製造・供給にあたりたい旨を伝えた。



第三十二回研修会 飼料効率を上げて「コスト削減」へ

中国三県購買担当者会は第三十二回研修会を開催した。講師には全酪連本所購買部酪農生産指導室の成田技術顧問を招へいし、研修を行った。

成田顧問は、「飼料価格の高騰が続く中、如何に飼料効率を上げてコスト低減を行う飼養管理へ導けるかが職員の仕事」として、以下のことを把握することが重要と述べられた。



- ①飼料の基本的な消化率を知る必要がある。
- ②ルーメン微生物は、飼料中の炭水化物の発酵を通してエネルギーを得ている。飼料効率 TMR1kgで乳量 1.4kg、配合飼料 1kgで乳量 3.0kgを目安とする。
- ③不飽和脂肪酸(ビール粕、豆腐粕等)が多い時(不飽和脂肪酸給与量 800g以上)ルーメン内のPHが低い時にでんぷん(穀類等)が多いと、乳脂肪合成に影響がある。
- ④泌乳後期では配合飼料を減じた分はビートパルプ(溶解性繊維)の給与(配合飼料 1kg減でビート 2kg)で体重を増やさず、乳量を維持出来る。
- ⑤固め食いを抑制するために給与は数回に分けて行い、ルーメン内のPH変動をさせないことが大事(ルーメンアシドーシスの防止策)。牛は飼料採食後3時間で空腹を感じるので、飼槽を空にさせない対策が必要。
- ⑥乾物摂取量は体重の3~4%を目安。
- ⑦分娩時血中Caが8.5mg/dl以下になると潜在性の低Caの傾向がある。血中Caは8.0mg/dl以上が必要。
- ⑧給与の5つのR「Right feed正しい飼料」「Right pen正しいペン」「Right amount正しい量」「Right time正しい時間」「Right way正しいやり方」
- ⑨4つの栄養供給量
 - ①飼料設計の給与量 ②実際の給与量 ③実際の摂取量 ④バクテリアの摂取量
 現場に応じた飼料プログラムと飼料コストを意識して設計すること。
- ⑩抽象的な表現をしない。
 - 例 「薄いTMR」「濃いTMR」 → 乳量何kgを維持するTMR
 - 例 「強いセンイ」「弱いセンイ」→ 「NDF40%」「ADF30%」
 - 例 「長いセンイ」「短いセンイ」→ 「切断長が長い」「短い飼料片」
 曖昧な表現は避けて酪農家が納得できる表現にすることが大事。